

## 情 報 公 開 文 書

研究の名称	ナローバンド UVB 療法で abnormal light reaction を生じた菌状息肉症の検討
整理番号	
研究機関の名称	国立大学法人富山大学
研究責任者 (所属・氏名)	富山大学学術研究部医学系皮膚科学・講師・三澤恵
研究の概要	<p>【研究対象者】 2017年4月～2027年10月までに富山大学皮膚科を受診し、ナローバンド（NB）-UVB 療法を施行された菌状息肉症患者さん</p> <p>【研究の目的・意義】 菌状息肉症は皮膚T細胞リンパ腫の代表的な疾患で古典的な症例では長年にわたり慢性に経過する疾患です。NB-UVB 療法を含め紫外線療法は菌状息肉症を長期にコントロールするために非常に重要な治療です。しかし一方で、菌状息肉症で低用量のNB-UVB に対しても紅斑が誘発される、いわゆる abnormal light reaction (ALR) を生じる患者さんがいます。しかし、ALR の発生率やその患者群の臨床的特徴についてはこれまでに十分に解析・検討されていません。本研究ではNB-UVB 療法で治療した菌状息肉症患者さんを対象にしてALR の発生率やその患者群の臨床的特徴、ALR が発生した後の治療選択について検討を行います。</p> <p>【研究の方法】 ナローバンド（NB）-UVB 療法を施行された菌状息肉症患者さんのうち、低容量のNB-UVB 照射でALR を生じた患者さんの発生率を調べ、その患者群の罹病期間や病期、併用治療などの関連について調べます。</p> <p>【研究期間】 実施許可日 ～ 2027年12月31日</p> <p>【研究結果の公表の方法】 学会発表および英文誌での論文掲載</p>
研究に用いる試料・情報の項目と利用方法 (他機関への提供の有無)	<p>試料：本研究では試料の使用はありません。</p> <p>情報：経過通常の診療で取得される菌状息肉症の診断根拠となる情報や、年齢、性別、罹病期間、病期、併用治療、NB-UVB 療法の初期量、維持量、NB-UVB 以外の紫外線療法の有無と照射量、ALR が生じた後の治療、スキンフォトタイプ</p>
研究に用いる試料・情報を利用する機関及び施設責任者氏名	富山大学附属病院 病院長 林 篤志
研究資料の開示	研究対象者、親族等関係者のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示いたします。
試料・情報の管理責任者（研究主機関における研究責任者氏名）	富山大学学術研究部医学系皮膚科学・講師・三澤恵
研究対象者、親族等関係者からの相談等への対応窓口	<p>研究対象者からの除外（試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む）を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。</p> <p>電話 076-434-7305 FAX 076-434-5028 E-mail dermatol@med.u-toyama.ac.jp 担当者所属・氏名 富山大学学術研究部医学系皮膚科学・講師・三澤恵</p>

